



学校だより ウルムス

～友達を思いやり、友達とひびき合う心～

令和 3年 2月 26日
横浜市立釜利谷南小学校

3月号

校長 田中さくら

学校ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamariyamami/>

弥生 校長室に…

立春を過ぎて暖くなり、西門の桜の木の芽もふくらみ、弥生3月を迎えます。

校長室はいつでもオープンに、どんな子どもたちでもお客様でも大歓迎をモットーにしていますが、様々な用事でドアをノックしてきます。一番多いのが鉛筆お守り作りの依頼です。2年前の朝会で、「落とし物が多いので物を大切にしよう」という話をしました。私は、三人兄弟の末っ子で、子どもの頃、文房具はほとんど兄や姉のお古を使っていたけれど、鉛筆だけは自分の物を新しく買ってもらえたから、嬉しくて大事に小さくなるまで使っていました。当時の担任の先生が小さくなった鉛筆で勉強をがんばれるお守りを作ってくれたという話を全校児童にしたところ、鉛筆の落とし物は減り、小さくなった鉛筆を持って来るようになりました。それが不思議なことに、入学前で朝会で話を聞いていないはずの2年生や1年生が多いのです。たてわり班や登校班のお姉さんやお兄さんに教えてもらったとのこと、「鉛筆一本でも大事にするんだよ」と子どもが伝えている姿を想像するとほほえましくなります。次に多いのがお悩み相談です。友達が困ったことをしていますとか、学校のきまりについてとか、時には嫌なことを言われました等です。なるべく早く解決できるようにアドバイスや指導をしていますが、先日いつも自分が嫌だったことを訴えに来る子が校長室にきたので、また何か辛いことがあったかなと思っています。「コロナだから前みたいに校長先生と坊主めぐりはできないね」とだけ言って帰ろうとしました。「今日は、話したいことはないの?」と聞くと「うん!校長先生に会いたくなくて、嫌なことないよ。」と返ってくれました。



その言葉で安心したと同時にとても元気が出て、これからは子ども達のためにがんばろうという気持ちになりました。子どもの言葉の力はすごいです。

逆に私たち大人が子どもにかけ言葉にも影響力があります。その一言で、やる気にさせる、笑顔になる、そんな言葉かけを心がけたいものです。

| | |
|-------------|-------|
| その一言で | 高橋 系吾 |
| その一言で | 励まされ |
| その一言で | 夢をもち |
| その一言で | 腹が立ち |
| その一言で | がっかりし |
| その一言で | 泣かされる |
| ほんのわずかな一言が | |
| 不思議に大きな力をもつ | |
| ほんの一寸の一言で | |

ありがとう6年生 そして保護者・地域の皆様への感謝

毎年卒業間近の6年生と校長室で給食の会食をします。小学校の思い出や卒業までにやりたいこと、中学への期待、担任の先生の話などを聞いて楽しく盛り上がります。でも今年は黙食で、給食を教室で食べ終わってから校長室で、アクリル板6枚のパーティーションで、各クラス3人ずつと校長で会話を楽しんでいます。その中で「卒業までにやりたいことは?」と聞くと、行けなかった東京見学や鎌倉見学などの6年生ならではのことかと思いきや、何人もの子が、もう叶わないけど1年生から全校のみんなと鬼ごっこや集会がやりたい、1年生と手をつなぎたい、全校遠足がなくなったことが一番悲しかったから... と言ってくれました。さすが釜南小のリーダーたちです。自分たちのことより全校のことを考えられる素敵な6年生に心から感謝です。せめて、全校児童からの感謝の気持ちが届くような、心に残るたてわりお別れ会、卒業式等で、6年生を送りたいと思いました。

最後になりましたが、4月の緊急事態宣言下で休業からスタートした今年度、様々な学校行事が中止や変更、短縮をせざるを得ない中、保護者の皆様、地域の皆様にはいつもと変わらぬ、いえ例年以上のご理解とご協力を賜り、本校教育活動を支えていただきましたことに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。